

B—8 中学生・女子大学生の皮脂汚れ量

梶山女学園大家政 小林 重喜
○山内 和子

1. 肌着につく汚れのうち、皮脂はたえず人体から分泌されている。この皮脂汚れは疎水性繊維の洗浄性、あるいは被服衛生などの点から、軽視することができない。

皮脂汚れ量の個人差や、分泌量におよぼす要因などについては、平尾氏により、多くの報告が行なわれている。しかし、男女別、年代層などによる皮脂汚れ量の様相は、殆ど不明のままである。

我々は、中学生・女子大学生を対象に、それぞれの皮脂汚れ量、およびその変動状況などを知りたいと思い測定を行なった。

2. 被験者は、中学生37名(男子16名女子21名)および女子大学生18名である。試布は、晒木綿を糊抜きした後、 10×20 cm に切り、ポリエチレンシートを重ねる。これを、肌着の背の部位に縫いつけ、24時間着用後、試布に付着した皮脂量を、単分子膜レンズ法により測定し、これをステアリン酸当量であらわした。

3. 総括的にみると、試布 100cm^2 あたりの皮脂汚れ量は、中学生では $6 \sim 7\text{mg}$ にピークをもち、女子大学生では $15 \sim 16\text{mg}$ にピークをもつ、

中学生においては、性別による皮脂汚れ量の差は、殆ど認められない。

また、同一人の時期による皮脂汚れ量の変化には、規則性が認められない。

なお、皮脂汚れ量は、気温が高いと少なくなる傾向がみられた。